



環境に左右されない働きかたを実現する
一生使えるライティングスキルが身につく

「好きなときに好きな場所で働く」を叶える！

Webライター はじめかたガイド

こんにちは。この度は期間限定の無料小冊子「Webライターはじめかたガイド」を手にとりいただき、ありがとうございます。

サンフランシスコ郊外在住、ライティングコーチの【さかもとみか】です。

未経験スタートでも最短3ヶ月でWebライターに必要なスキルを身につけて"好きな時に好きな場所で働く"を叶える！



編集者やライターなどメディア作り12年の経験を活かして「Webライターとして働いてみたい」方をマンツーマンstyleでサポートしています。

Webライターをやってみたいけど何から始めたらいいの？
自己流で始めてみたものの、経験者の話が聞いてみたい！

という方のために、Webライターという仕事がどんなものなのか、どんなスキルが必要とされるのか、最初に知っておきたいことをできるだけ具体的にまとめたものが、今回無料小冊子としてお渡ししている「Webライターはじめかたガイド」です。

Webライターの仕事を通して身に付ける力は、今後キャリアを築いていく上で、女性にとって必ずや大きな武器になると思います。

わたしがこれまで培った知識と経験が、悩んでいる方の役に立つなら、こんなに嬉しいことはありません。

一緒にWebライターという働きかたを始めてみませんか？

Liner's Edit
ライティングコーチ
さかもとみか

目次

・はじめに

(1) Webライター仕事の全容解説

(2) ブロガーとの大きな違いとは

(3) 案件数が多い記事の種類

(4) 仕事を始める時に必要なツール

(5) Webライター仕事の探し方

(6) 実績なしでも採用されるには？

(7) Webライターのステップアップ

(8) 安定して稼ぐために必要な力

(9) 読みやすい記事を作るポイント

(10) Webライターがおすすめな理由

・さいごに

【著作権について】

この小冊子は著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意戴きご利用下さい。

- ・小冊子の著作権は作成者に属します。
- ・著作権者の許可なく、全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。
- ・小冊子に書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は、事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

Webライターの仕事と期待される役割

Webライターの仕事とは、簡潔に言うと「企業や個人（クライアント）が運営するWebメディアの記事を書くこと」です。

「クライアントから依頼を受けた通りに記事を書いて納品する」というのが基本的な作業となります。記事を納品するまでがゴールだと思われがちですが、最終的なゴールはクライアントにメリット（売上）をもたらすこと。ゴール設定はクライアントによってさまざまですが、Webライターが書いた記事によって次のような効果を期待されることが多いです。

- Webメディア全体の質が高くなる
- 企業や個人の認知度がアップする
- サービスが世の中に広く知れ渡る

基本的な作業の部分をもう少し詳しく解説すると以下の流れになります（一例）。

（Webライター） 案件を探して応募する

↓

（クライアント） 採用可否・執筆内容の指示

↓

（Webライター） 企画書を提出

↓

（クライアント） 企画の採用・不採用を精査

↓

（Webライター） 執筆開始・納品

↓

（クライアント） 確認してフィードバック

↓

（Webライター） 該当箇所を修正・再納品

↓

（クライアント） 最終確認後メディアに掲載

Webライターの仕事は文章を書くことだけじゃない

Webライターの主務は「文章を書くこと」ですが、実際にはそれに付随するたくさんの業務があります。仕事内容は案件ごとに異なりますが、参考までに次のようなものが挙げられます。

【企画考案】

多くのWebメディアでは執筆内容をWebライター自ら提案します（「ネタ出し」とも呼ばれます）。そのためには日頃から情報収集が欠かせません。読者に「おもしろかった」「ためになった」と思ってもらえる記事を目指します。案件によってはクライアントから細かく指示を受ける場合も。

【アポイント取り】

もし人物やお店を紹介する場合、取材をすることもあります。まずはコンタクトを取り、掲載概要を説明した上で改めてインタビューさせていただくアポイントを取ります。また、記事が完成したら内容に誤りがないか先方に確認するやり取りも発生します（編集部が担当するケースも多いです）。

【写真の選定】

担当した記事に使用する写真はWebライター自ら準備することがほとんどです。記自分のカメラで撮影した写真や無料素材のレンタルサイトで選んだ写真を、原稿と合わせてクライアントに納品します。記事を読むか読まないか、写真で判断する読者も多いので、内容に合っているかつ目に留まりやすいものを選びます。

【経費・精算】

これはどの仕事でも同じですが、報酬の支払いに関する請求書送付はもちろん、取材で使用した経費を管理するのも仕事の一つです。交通費や機材費といったものがこれに当たります。

個人が主役のブロガー、情報が主役のライター

ブロガーとライターはどちらも「文章を書く」作業が求められますが、次のようなポイントにおいて違いがあります。

【ブロガー】

- ・自分で運営する個人メディアで執筆
- ・本人の個性を出すことが求められる
- ・書きたいと思ったことを何でも書ける
- ・文字数に制限がない
- ・誤字脱字や誤情報は自分で修正できる
- ・収益になるまで時間がかかる

【ライター】

- ・企業や他者が運営するメディアで執筆
- ・主役は情報なので個性を打ち出さない
- ・クライアントの要望に沿って書く
- ・決められた文字数におさめる
- ・誤字脱字や誤情報は一瞬で信頼を失う
- ・記事ごとの報酬で即金性が高い

規定や報酬と言った部分に違いもありますが、文章を書くという側面で見ると、大きな違いは「書き手の存在を読者に感じさせるか」です。

ブロガーはどんな言葉を使っても日本語がおかしくても、それが個性となります。「この人が書いたものだから読みたい！」と思ってもらえればしめたもの。

一方ライターは、個性は出さず「取り扱う情報そのものに読者が興味関心を持つ」もしくは「提供する情報が読者にとって有益となる」ように心がけて文章を書くことが求められます。プロとしてきちんとした文章を書けることも大切です。

Webライター案件で多いもの

Webライターが書く記事は幅広く、いろいろなパターンがあります。ここでは案件が比較的多いタイプの記事を挙げてみました。

特定テーマの情報記事

Webライターの中でもわたしが一番おすすめしているのは、企業が運営するWebメディアで特定テーマに関する記事を書く仕事です。

旅行メディアなら観光に関する記事、美容メディアならメイクに関する記事など、リサーチした情報をもとに記事を書き上げます。自分の知識や経験を活かしやすい仕事です。

掲載された記事が人気かどうかはアクセス数として反映されるので結果がわかりやすいのもポイント。その点はシビアですが、ライターとしての名前が世に出ることも多くやりがいがあります（本名ではなくペンネーム可）。

アフィリエイト記事

一方、実際に案件数が多いのは企業や個人が運営するアフィリエイトサイトで記事を書く仕事です。アフィリエイトとは、企業と提携を結んで記事内で商品を紹介し、読者がクリックして購入すると報酬がもらえるシステムのこと。

ある分野に特化した記事を書くというのは、前述した「特定テーマの情報記事」と同じですが、ライターの名前は表に出ないケースがほとんどです。

クラウドソーシングサイトで検索すると、たくさんのクライアントが「育児」「美容」といったテーマで求人を出しています。単価は安いものの、難易度が低い案件が多いのでWebライターデビューはこのような案件から始めるのがスムーズです。

インタビュー・レポート記事

話題の人物にインタビューしたり、流行りのイベントに参加したり、取材をして記事を書く仕事です。取材対象について客観的に詳しく紹介するため、長文になる傾向にあります。

読者の興味関心を引きつけて取材対象や掲載メディアの認知度をアップさせることが主な目的。間違った情報を書くことは許されません。

実際の現場に出向く、もしくはオンライン取材が必要なので、Webライター仕事の中でも時間と手間がかかる案件となります。

オピニオン記事

あるテーマについて自分の考えや経験、そこから感じたことを記事にする仕事です。実用的なものから概念的なものまで執筆内容は多岐に渡ります。

専門家として淡々と意見を述べる記事もあれば、読者の心情に寄り添う情緒的な記事もあります。

いずれにせよ、特定分野で圧倒的な知識や経験を積んでいる人、自分の気持ちや感情を上手く言語化できる人は有利。他と異なるのは、Webライターの中でも個性が求められる点です。

数をこなすと向き・不向きがわかる

「インタビュー・レポート記事」「オピニオン記事」は比較的上級者向けなので、まずは「特定テーマの情報記事」「アフィリエイト記事」から始めましょう。いろいろなタイプの仕事をやっていくうちに自分が書きやすいものがわかってくるので、機会があれば一通りチャレンジしてみるのもおもしろいと思います。

Webライターになるための4つの神器

Webライターの魅力の一つに「初期投資がかからない」というものが挙げられます。高額な設備に投資することも、在庫を持つことも必要ありません。

まずは以下の4点があれば準備完了です。

【インターネット環境】

自宅にインターネット環境があることは必須条件。外出先もwi-fiが飛んでいれば仕事をすることができます（単純に書く作業だけのときは不要）。

【パソコン】

スマホだけで執筆している強者ライターさんもいらっしゃいますが、やはり本業もしくは副業として長く続けるためにパソコンは欠かせません。すでにお持ちであればそれで充分です。

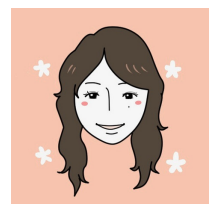
【スケジュール帳】

案件の納品が重なってくるとすっかり失念する恐れがあるので自分が忘れないようにスケジュール管理しやすいものを用意します。手帳に書いて管理するライターさんもいれば、パソコン上で管理するライターさんもいます。

【参考書籍】

Webライターとして記事を書くにあたって文章力を学ぶ参考書は、たくさん読むよりもまずは一冊を読み込んでみるといいと思います。国語辞典や類語辞典も手元にあると心強いです。

ライティングに関するおすすめの書籍はたくさんあるので、また別途メルマガにて読んだ感想と合わせてご紹介させていただきますね♪



Windowsがいい？Macがいい？

使用するパソコンはどちらでも構わないのですが、一つ注意点があります。

それはMacにはマイクロソフト社の文書作成ソフトウェア（ワード、エクセル、パワーポイントetc）が標準装備されていないこと。

クライアントと原稿をやり取りするときはワード形式で提出を求められることが多いので、Macを使用する場合は別途マイクロソフト社のソフトウェア製品を購入してインストールすることになります（裏技もありますが…）。

また、請求書はエクセルで作成することがほとんどなので、こちらも必要です。

いずれにせよ、長時間をともにする相棒として、自分が使っていて疲れないパソコンを愛用するのが一番です。



Webライターになる3つの方法

Webライターとして働き始めるにあたり、仕事を探すスタンダードな方法が3つあります。ひとつずつ解説していきますね。

クラウドソーシングサイトで探す

まずはクラウドソーシングサイトに登録しましょう。

クラウドソーシングとは仕事をお願いしたい会社や個人と、仕事を探しているフリーランスを結ぶマッチングビジネス（仲介業）です。

募集をかけている案件に、Webライターが応募するというもの。サイトが仲介しているのでトラブルになりにくい点がメリットです。

（クラウドソーシングサイト例）

・ランサーズ

<https://www.lancers.jp>

・クラウドワークス

<https://crowdworks.jp>

Webメディアの求人に応募する

企業がホームページで公開している求人にも、直接応募します。

恋愛や映画など、自分が好きなテーマでメディアを運営している会社に求人がないか検索してみてください。大々的には募集していなくても、問い合わせると選考のご案内をいただける場合もあります。

クラウドソーシングサイトの案件よりも報酬が高い傾向にあります。

スキル売りサービスに登録する

少し上級者向けになりますが、スキル売りサービスで「Webライター」として登録する方法もあります。ここ数年、スキルや知識を売ることができるオンラインマーケットサイトの利用者が増えています。

イチオシは「ココナラ (<https://coconala.com>) 」というサービス。クラウドソーシングサイトが自分から応募するのに対して、ココナラはWebライター側が「〇〇できます」という看板を掲げて仕事を得るスタイルです。

自分の長所や得意分野を魅力的にアピールすることでチャンスを掴みます。やればやるほど評価が高まり、依頼数も増えていきます。

一方で、一度なんらかの形で信頼を失うと低評価という形で反映されてしまうので、注意が必要です。



実績なしでも採用されるには？

未経験OKの求人は意外と多い

Webライターの求人によっては経験者のみという条件もありますが、未経験でもOKなメディアは少なくありません。

その場合、クライアントは質より量を求めており、経験が不足していても情報が正確であれば問題ないという考えから募集に至っているようです。

しかし、未経験とはいえ最低限のスキルは必要です。正しい日本語を書くのはもちろんのこと、クライアントの意図を汲み取ったり、納期までに仕事をやり遂げたり、丁寧かつ責任感ある対応が求められます。

応募するときに意識したいこと

前職はまったく違う職種に就いていた会社員や、何年ものあいだ子育てに専念していた主婦、Webライターとは関係ない経歴でも採用される可能性は充分あります。

ポイントは、過去の経験から得たものをWebライターに必要なスキルとマッチングさせること。たとえば販売員として働いていたとしたら、お客さんの心を開く会話術がインタビュー場面に活かせるし、子育てをがんばっているお母さんであれば効率的に物事を進める時間管理術が活かれます。

Webライター以外の経験があるからこそ書ける文章というものが必ずあります。以下のようなポイントもアピール材料になるので、意識してみてくださいね。

- ☆Webライター業への熱意
- ☆文章を書く習慣の有無
- ☆特定分野への愛や知識
- ☆俯瞰的かつ客観的な視点
- ☆フットワークの軽さ
- ☆コミュニケーション能力 etc

Webライターはどのくらい稼げる？

率直に申し上げて、スタート時点で稼げる額は高くありません。Webライターの報酬は、一文字〇〇円という「文字単価」、もしくは1本〇〇円という「記事単価」がほとんど。

初期に受注できる仕事は一文字0.2~0.5円という案件も多く、1000文字書いても200~500円というのが現状です。

ただし、文字単価は経験を積みれば積むほど高くなる傾向にありますし、Webメディアで執筆した場合は500~1000文字の記事を書いて1本2000~4000円が相場となります。大手企業が運営するメディアでは1本10000円という好条件も。

そのため、最初は「稼ぐ」ことを目標とするのではなく「Webライターとして経験を積む」「ライティング力をつける」といった部分にフォーカスすると楽しんで働くことができます。

それでは、Webライターはどのようにステップアップしていけばいいのでしょうか？わたしがおすすめしているのは、次の4ステップになります。

ステップ1) クラウドソーシングサイトで実績を積む

まずはWebライターとしてたくさん書く経験をするのが大切。最初は一つのクラウドソーシングサイトを使います。Webライターが安定して稼ぐには、継続してお仕事を依頼してくれるクライアントさんと関係性を築くことを目標とします。

慣れてきたら案件数を増やすために、他のサイトも使ってみてください。あまり多すぎると混乱のもとになるので、継続的に受注できるサイトのみアカウントを残します。

サイトによってそれぞれ求人内容も違うので、使っていくうちに強いジャンルやクライアントの傾向など、自分との相性がわかってきます。

ステップ2) 得意なジャンルを確立する

記事のジャンルにはさまざまなものがあります。芸能、美容、教育、金融…。最初はいろいろな分野で書いてみて、次第に苦手なジャンルの記事は時間がかかる、手間がかかるものとして受けないようにすることは一つの戦略としてアリです。

自分はこれ！という得意なジャンルを確立して、なおかつ実績があると、クライアントは仕事を依頼しやすいです。求人数が限られるデメリットはありますが、専門性を高めることで報酬アップが期待できます。

ステップ3) 企業と直接契約する仕事を増やす

Webライターの仕事に慣れてきたら企業が運営するWebメディアで直接契約できる求人はないか探してみてください。その際、得意なジャンルで攻めるとWebライターとしての専門性が高まります。

直接契約のお仕事が増えれば、クラウドソーシングサイトと違って手数料を取られないので結果的に稼ぐ額がアップします。

ステップ4) Webライターから横軸展開する

Webライターとしての仕事が軌道に乗ってきたら、そこから少し幅を広げてみましょう。たとえば次のようなお仕事が考えられます。

- ・メディアそのものを構築・運営する→編集
- ・Webライターが書いた原稿をチェックする→校正
- ・英語を学んで海外のコンテンツを和訳する→翻訳

また、CHAPTER3では違いを解説しましたが、Webライターで得た知識と経験をもとにオリジナルのブログを作るのもいいと思います。誰も知らない状態から一人でも多くの読者を自分で獲得していく経験はWebライターとして学びも多いです。

Webライターに文章力は必要ない？

「Webライターになりたいけど、わたしに誰かの気持ちを動かすような文章が書けるだろうか…」と心配している方も多いかもかもしれませんが、小説家でもない限り、相手の感情を揺さぶるような文章を書く必要はありません。

もちろん日本語として正しく書けているかどうかは大切ですが、文章力よりも鍛える必要があるのは次のような力です。

☆依頼主の要望を理解するヒアリング力

多くの案件がクライアントからテーマを指定されて書く仕事です。相手が依頼した内容を正確に把握して、要望に沿った記事を作成しなければなりません。

依頼内容と提出原稿にミスマッチが起こると、クライアントは記事を利用することができずに契約が破綻してしまいます。

クライアントがどのような記事を求めているのか、どんな読者をターゲットにしているのか、質問して理解を深めてから記事を書き進めていきましょう。

☆情報を深く追求するリサーチ力

Webライターにとって情報収集は重要な仕事の一つ。わからないことがあればそれについて徹底的に調べた上で文章化する必要があります。中身が薄い記事では読者は満足することができず、他の記事を探すために離脱してしまうからです。

また、自分の中にまったく見識がないジャンルの場合は途中で力尽きてしまい、依頼された文字数に達することができません。

リサーチ力はWebライターに必要な力の中でも特に鍛えておきたい部分です。

☆読みやすい文章をつくる構成力

どんなに良い主張をしている記事でも、読みにくければ読者には受け入れてもらえません。いかに多くの人に最後まで読んでもらえるかが鍵となります。

ダラダラと文章を書くのではなく、コンセプトを立てる→アウトラインを決める→見出しをつける→本文を書き始めるという流れを意識します。

どうやって構成していけばいいかわからないという方は、自分が読みやすいと感じた記事がどのように書かれているか着目して読んでみるのがおすすめです。

☆スピード重視のタイピング力

収入を上げていくには、タイピングスピードは重要です。

タイピングスピードの目安としては10分間に400字以上の文章を打ち込むことができれば上出来と言われています。

マンガの感想など簡単なものでもいいので、10分間計測して何文字書くことができるのか自分でテストしてみましょう。

☆表現の幅を広げる語彙力

語彙力がなければいつも同じ表現しかできず、書いているほうも読んでいるほうもマンネリ化します。

語彙力を増やすには、日頃から幅広いテーマの本を読むのが効果的。小説、エッセイ、ビジネス書など、本はなんでも構いません。

新しくインプットした言葉を自分のものにするためには、日記やブログでアウトプットするのが一番良い方法です。

☆SEOライティングに関する知識

最後に、現代のWebライターにとって非常に重要なのがSEOの知識です。

※SEO=Search Engine Optimization（検索エンジン最適化）とは、GoogleやYahoo!で検索したときに、より良い順位で表示されるように取り組む一連の活動

調べたいものがあるとき、まずは検索して表示された1ページ目の一番上の記事を読むことが多いですね。

一番上に表示された記事が最もクリック率が高く、二番目以降はどんどん下がります。せっかく読者にとって有益な記事を書いてインターネット上に公開されても、上位表示されないと読んでもらうことすらできません。

SEOを意識したライティングには、いくつかルールがあります。関連書籍が多数出ているので、一冊読んでみることをおすすめします。



6つのチェックリスト

記事の読みやすさをアップさせるには、次の6つをぜひ意識してみてください。

・明確なターゲット設定

記事を書くときは、どんな人に読んでもらいたいのかターゲットを絞ることが大切。クライアントのWebメディアを読み込んでターゲットを掴んでくださいね。

・コンセプトがわかるタイトル

この記事で伝えたいこと＝コンセプトがはっきりしているタイトルによって、読者は自分に必要な情報かそうでないか瞬時に判断することができます。

・文章の流れを掴める見出し

Webメディアの記事はスピード感も重要。見出しだけで中身が想像できるように工夫します。これにより読者は必要な部分だけ読むことが可能になります。

・適切に使用した段落や改行

段落や改行を使わず文字を詰め込んでしまうと読みにくい。「改行は一つの主張を書き終えたとき」「段落は一つのテーマを書き終えたとき」を基準に。

・長すぎず短すぎずの一文

一文が長くなればなるほど主語や述語が入り乱れてしまい、おかしい日本語になりがちです。読点が4つ以上になったら文章は分けたほうがベターです。

・不快感を与えないリズム

「～です」「～です」と同じ語尾が続いたり、「あの」「この」「その」など代名詞が乱用されていると読みにくいので不要なものはなるべく削除します。

・わかりやすい単語や説明

記事に専門用語や難しい単語ばかりが羅列されていると、それだけで読者は拒否反応を示すことがあります。聞き慣れない言葉は極力使わないようにしましょう。

Webライターは始めるハードルが低い

自宅でパソコン一台さえあれば始められるWebライターは、空いた時間を利用して挑戦しやすい仕事の一つ。会社員として働いている方の副業や、子育てをしながら少し時間ができた方の在宅ワークとしておすすめる理由を挙げてみます。

理由1) 初期費用がかからない

まずは何と言ってもこれ。カッコいい言い方をすれば、Webライターは自分の身ひとつでチャレンジできる仕事です。

初期費用がかからないからこそ、いつでも始められていつでもやめることができます。そのときに失うものはほとんどありません。

理由2) スキマ時間を活用できる

出社して働く必要がある場合、労働時間だけでなく着替え、メイクといった準備時間もかかります。仕事場が自宅から遠い場合は移動も大変。

その点、Webライターは自宅にいながらスキマ時間にパソコンを立ち上げるだけでOK。納期さえ守ることができれば、仕事の進めかたも自由です。

理由3) 好きな場所で仕事ができる

パソコンとインターネット環境だけで、自宅はもちろんカフェ、ホテルなど気分転換しながら仕事をすることができます。

自宅で赤ちゃんの寝顔を見ながら、旅行先の美しい景観を眺めながら、など場所に捉われない働きかたができるのはWebライターならではの特権といえるでしょう。

理由4) 仕事量や収入をコントロールできる

稼ぎたいときは積極的に仕事を受ける、休みたいときは控えめにするなど、プライベートと両立しやすいのがWebライターの良いところ。

福利厚生がないので全て自分で担わなければならないのがデメリットではありますが、産休・育休やバケーションなど思いのままです。

理由5) 未来の可能性が広がる

Webライターの仕事にはたくさんの業界に関わる案件があるので、一つ一つ記事を書いていく中で知見がたまり、新しいビジネスにつながっていきます。

ライティング力はどんな仕事にだって必要不可欠です。Webライターを通して身についたものは、企業への再就職でも、起業でも、必ず役に立ちます。



期間限定の無料小冊子「"好きな時に好きな場所で働く"を叶える！Webライターは
はじめかたガイド」を読んでいただき、ありがとうございました。

私自身、これまで一人の女性としてキャリアの壁にたくさんぶつかってきました。
その時にいつも一筋の光を差し込んでくれたのがWebライターという仕事でした。

この小冊子には、これまでWebライターとしての経験だけでなく、編集者というク
ライアントにあたる立場になって学んだことも詰め込んでいます。

読んでくださった皆様にとって、少しでもお役に立てればこんなに幸せなことはあ
りません。

また、Webライターに関する情報は以下のブログでもお伝えしています。

<ブログ>

<https://linersedit.com>

<アメブロ>

<https://ameblo.jp/linersedit>

最後までお付き合いいただき、重ねて感謝を申し上げます。

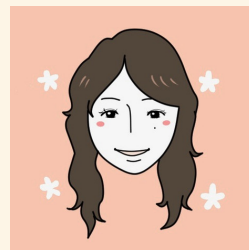
【プロフィール】

アメリカ・サンフランシスコ郊外在住。新卒で入社した
旅行会社にて会報誌制作を担当したことがきっかけで編
集やライターの面白さに目覚める。

大手旅行情報誌の編集・制作として5年半勤めたのち単身
渡米。現地に住む日本人向けフリーペーパーの制作会社
で編集兼ライターを担当。

退職後はフリーランスのWebライターデビュー。現場取
材やインタビューも得意分野。

サンフランシスコ及び周辺の地域情報ブログも運営中。



Liner's Edit
ライティングコーチ
さかもとみか